

健康長寿に住環境重要

山形でシンポ ヒートショックなど学ぶ



健康や省エネに配慮した居住空間の重要性を学んだシンポジウム 山形市・県J Aビル

少子高齢社会に対応した住宅の性能などを考える「健康・省エネシンポジウム」が11日、山形市の県J Aビルで開かれ、約90人の出席者が健康増進を図るため快適な環境を整える重要性を確認した。

建築業者や大学関係者などでつくる「やまがた健康・省エネ住宅推進協議会」(会長・長谷川兼一秋田県立大教授)が開催。東北大学の吉野博総長特命教授、慶応大の伊香賀俊治教授が講演し、東北地方では暖房が占める割合が高い住宅用エネルギーの消費動向をはじめ、温度変化に伴う血圧の急激な変動などが引き起こす「ヒートショック」の全国的の発生状況などを説明した。

このうち伊香賀教授は厚生労働省の統計を基に、近年はヒートショックなどによる家庭内事故死の人数が、交通事故死を上回っている現状を紹介。居住空間内の温度変化を抑えるには断熱改修が効果的との研究結果を示しながら、「住環境を整えれば健康長寿につながり、医療費も減る好循環が生まれる」と強調した。このほか国土交通省の担当者が、高齢者が地域で安心して暮らせるよう医療や介護、生活支援を一体的に提供する「地域包括ケアシステム」など国の施策を解説した。

人事と会合

- ◎ 札幌市に出張中の吉村美栄子知事は11日帰県
- ◎ 遠藤利明衆院議員は11日帰県、同日東京へ
- ◎ 近藤洋介衆院議員は11日帰県、同日東京へ
- ◎ 鈴木憲和衆院議員は11日帰県
- ◎ 加藤国洋尾花沢市長は11日東京出張
- ◎ 鈴木洋金山町長は11日栃木県に出張
- ◎ 山本健慈和歌山大学長は11日離県
- ◎ 吉野博東北大総長特命教授、長谷川兼一秋田県立大教授、伊香賀俊治慶応大教授は11日来県、同日離県